

アジア研究教育ユニット 令和3年度教育研究報告書

事業課題名	アジア経済発展論研究会
代表者名	矢野剛 (経済学研究科)
事業概要 (600字程度)	<p>京都大学大内の各部局に分散している経済発展論・開発経済学・アジア経済研究系の研究者の研究交流の場として、当該分野の研究報告・討論をおこなう定期的研究報告セミナーを開催した。経済学研究科、東南アジア地域研究研究所、農学研究科を中心に多くの教員、研究者、大学院生が参加し、アジア経済と開発経済学の先端研究の現状の理解を深めた。</p> <p>11回のセミナーで11人の研究報告を実施し、学内の研究者・院生のアジア経済研究・経済発展論の分野の活性化をもたらした。コロナ禍の下でのセミナー開催であるため全ての回がオンライン形式ないしはハイブリッド形式でおこなわれた。11人の報告者のうち2人は海外から直接オンラインで研究報告をし、謝金も海外への銀行送金を通じて支払われた。コロナ禍が収束した後もこの形式での海外の研究者の招へいも継続していく予定である。</p> <p>事業経費は、学外報告者招聘のための謝金として効果的に支出された。</p>
成果の概要 (800字程度)	<p>以下の11回の研究セミナーを開催し、11本の研究報告が行われた。詳細は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2021.06.03 高野 久紀 (京都大学 准教授) ” At the Right Time: Modifying Repayment and Disbursement Schedule in Microcredit (joint with Abu Shonchoy and Kazushi Takahashi)” 2. 2021.07.01 児玉 航 (京都大学 博士後期課程) ” What explains low demand on weather index insurance? Theoretical and empirical evidence from Zambia” 3. 2021.08.05 水野 広祐 (インドネシア大学大学院環境学研究科教授、京都大学 東南アジア地域研究研究所名誉教授、総合地球環境学研究所客員教授) 「インドネシアの2020年オムニバス法と雇用・労働関係」 4. 2021.09.02 川上 桃子 (日本貿易振興機構アジア経済研究所, 地域研究センター, センター長) 「中国ファクターの政治経済学」 5. 2021.09.16 Attavit Prachakseranee (京都大学 博士課程) ” Capital Requirements and Lending: The Case of D-SIB Capital Buffer in Thailand”

	<p>6. 2021.10.07 Stefano Fiorin (Assistant Professor, Bocconi University) ” Reporting Peers’ Wrongdoing: Experimental Evidence on the Effect of Financial Incentives on Morally Controversial Behavior”</p> <p>7. 2021.11.04 相澤 俊明 (早稲田大学 講師) ” Does the Conditional Maternal Benefit Programme Improve Infant Mortality in India?”</p> <p>8. 2021.12.02 Sangyoon Park (Assistant Professor, 香港大学) ” State Certified Lemons: A Randomized Intervention on Agricultural Quality Certification”</p> <p>9. 2022.01.06 関 麻衣 (立命館大学 准教授) ” Haste Makes No Waste: Positive Peer Effects of Classroom Speed Competition on Learning”</p> <p>10. 2022.02.03 馬場 弘樹 (京都大学 特定助教) 「タイにおける都市施設のアクセシビリティ格差」</p> <p>11. 2022.03.17 深尾 京司 (一橋大学経済研究所 特任教授・アジア経済研究所 所長) ” Human Capital and Economic Growth in Japan: 1885-2015” (牧野達治、攝津齊彦との共同研究)</p>
--	---